

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890100096
法人名	有限会社 スローライフ
事業所名	ぐるうぷほうむ54番地
所在地	松山市水産町54番地
自己評価作成日	H22年9月8日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成22年9月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

共同生活介護サービス事業所ですので、利用者さんたちの暮らしを支援するという立場に立って、利用者さん同士の関係を大切にしたい支援を行っています。利用者さんがお互いに助け合う場面が多く、私たちとしては、その加減を調整する役割を心がけています。今後はさらに、喜怒哀楽を素直に表現でき、なおかつ許しあえる関係づくりをめざして前向きに取り組んでいきたいと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

駐車場の出入り口には、ジュースの自動販売機とベンチを設置して、休憩できる場所を作っておられる。居間には、畳を一畳分置いて座る場所を作り、又、椅子が各所に配置されており、利用者がそれぞれお好きな場所で過ごせるようになっていた。台所は居間と境目のない造りで、調理している職員の後で、利用者がテーブルでおしゃべりしたり調理の下ごしらえをされていた。1階は、居間から庭に出られるようになっており、雨の日にもちょっと外に出られるようになっている。
「身体拘束はしない」ことを、事業所全体で決めておられる。興奮した状態にある利用者が転倒したようなこともあったが、法人代表者からのアドバイスも受けて「気持ちが落ち着くのを待つ」ことに取り組み、その後で処置して、ご本人も落ち着かれたようである。又、落ち着かず事業所内を動きまわるような利用者の方もいるが、2階の洗面所にはカーテンを引く等「危険なもの等を遠ざけ」ご本人の行動を止めることがないようにされている。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 ぐるうぷほうむ54番地

(ユニット名) 1F

記入者(管理者)

氏名 喜井 伊久里

評価完了日

平成22年9月8日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 事務所や廊下に理念を貼り、常に目につくようにしている。ケアプラン作成時は、理念に基づき、計画を立てるようにしている。 (外部評価) 事業所では、法人系列事業所全体で「尊厳の保持」「自立支援」を理念に掲げておられる。管理者は、理念に基づき、利用者と職員の関係が「してあげる・してもらうの関係にならない」よう指導されており「利用者がしてほしいことを考える」ことを職員に話しておられる。さらに「地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所の理念」についても、この機会に「事業所が地域の中でどのようなことを目指していくか」ということについて話し合ってみてはどうだろうか。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 利用者との散歩時に、地域の方と挨拶を交わしたり、お話しをしたりして、こちらから積極的に声をかけるようにしている。施設の前の神社の夏祭りでは出店を出し、利用者と一緒に販売し、地域の方に知っていたできるようにしている。 (外部評価) 事業所の前にある神社の夏祭りの際、管理者が事前に地区の区長と話し合っ、今年はホームで駄菓子屋を出店された。10月の地方祭には、獅子舞や神輿が来てくれることになっている。利用者がお一人で出て行かれていますと「車いすであっちに行きよったよ」と近所の方が教えて下さることもあり、管理者は「近所の方がホームのことを知ってくださって来ている」と感じてもらった。又、「まもるくんの家」に登録されている。	事業所の前には神社や公民館・公園もあり、管理者は、事業所を「地域の人達が気軽に立ち寄れるような場所にしたい」と考えられている。運営推進会議等も活かして地域の方達とのかかわりを積極的に作り、地域のいろいろな方が来やすい事業所作りに向けて取り組みをすすめていかれてほしい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 小学校に呼びかけ、町探検で立ち寄って貰ったり、中学生の職場体験を受け入れたりしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 家族や地域の方に参加して頂き、サービスの取り組み等の報 告や話し合いを行っている。そこで頂いた意見は、実現可能 なことから取り組み、次の会議に報告ができるように努力し ている。	
			(外部評価) 管理者の交代等もあり、運営推進会議の開催が難しかったよ うである。1月の会議時には、地区の区長や民生委員の方等 にも参加いただき「サロンみどろ」の活動情報を教えていた だいたり、地域の避難訓練の日程等を教えていただき、職員 3名で参加された。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 認定更新等の機会に、担当者へ利用者の様子や状態を伝え、 協力関係を築くように努めている。	
			(外部評価) 地域包括支援センター主催の介護事業所の集まりや地区のグ ループホームの集まりに出かけて、同業者と意見交換をされ ている。各事業所が交代で司会を担当して、テーマを決めて 話し合いをされている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 日勤帯は開放し、夕方からは、安全確保のため施錠をするよ うにしている。外に出ようとされる利用者がいれば、納得す るまで、散歩等に付き合うようにしている。身体拘束はしな いで、それ以外のケアをみんなで話し合い、取り組むように 心掛けている。	
			(外部評価) 「身体拘束はしない」ことを、事業所全体で決めておられ る。興奮した状態にある利用者が転倒したようなこともあっ たが、法人代表者からのアドバイスも受けて「気持ちが落ち 着くのを待つ」ことに取り組み、その後で処置して、ご本人 も落ち着かれたようである。又、落ち着かず事業所内を動き まわるような利用者の方もいるが、2階の洗面所にはカーテ ンを引く等「危険なもの等を遠ざけ」ご本人の行動を止める ことがないようにされている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 月1回のミーティングで勉強会を開いたり、スタッフ同士で話し合いをしたりして、虐待防止の徹底に努めている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 職場内に、成年後見制度のポスターを貼り、制度の周知に努めている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時は、十分に説明した上で、疑問点や不安に感じることはないかを尋ね、理解・納得して頂けるように努めている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議や面会時に、家族からの意見・要望が伝わるようにしている。その意見や要望に対する答えを出せるように、話し合いをし、出来ることから実践するようにしている。 (外部評価) ホーム便りは季節ごと年4回発行され、写真を多く載せて利用者の様子を伝えておられる。毎月請求書を送る際に、個別に、お手紙でご本人の様子を伝えられている。又、ご家族の来訪時には、職員はご家族に、日々の暮らしのエピソードの中から「ご本人のいいところ」を伝え、管理者は「ちょっと言いにくいこと」を伝えることにされている。	ご家族の心情を踏まえて、管理者は「毎月ご家族に電話をして、お話をしながらご家族の意見や要望を引き出していきたい」と話しておられ、ゆくゆくは「家族会」が開催できるよう、すすめていきたいと考えておられた。ご家族が「気になること」「知りたいこと」等を探り、情報提供を工夫していかれてほしい。利用する側であるご家族の気付きやご意見を具体的に引き出して、事業所のケアサービスの質の向上への取り組みにつなげていかれてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 日頃から、職員の意見や要望を言いやすい様にコミュニケーションを密にし、積極的に声かけをするようにしている。反映できることは迅速に対応している。	
			(外部評価) 事業所では「日替わりリーダー」を決めて、リーダーが職員個々からの意見や要望を集めて、管理者に伝えるようにされている。又、その日の勤務職員が、法人代表者に業務報告を行うようになっている。職員は「日常的に相談できる体制や責任者」を希望されており、管理者は今後「班長」を決めて、ホームをまとめていきたいと考えておられた。又、職員は「研修等も受講して技術や知識等についても学びたい」と話しておられた。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者も現場に行き、利用者に声かけをし、職員個々にも声かけをし、思っていることなどに耳を傾け、働きやすい環境・条件の整備に努めている。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) ミーティングや申し送りの時に、ケアについての資料を配布したり、話し合いを行っている。講習会の案内等をスタッフの目の届くところに掲示したり、研修や資格取得の際には、勤務の都合をつけるようにしている。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 同業者との交流は以前に比べて少なくなっている。これから、少しずつでも機会を作っていくようにしたい。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前に、家族を交えての聞き取りを行うようにしている。家族からの情報や入居してから、声かけや観察にてとコミュニケーションを取り、本人の思いをキャッチし、安心して過ごせるようスタッフ同士協力している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>入居時に、家族の要望や不安等を聞いたり、これまでの生活や苦労などを把握して、ゆっくりと関係を作っていくように努めている。</p>	
17		<p>初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>入居時に家族と話し合いを持ち、適応できるサービスがあれば提案するようにしている。</p>	
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>得意分野を見極め、これまで日常で行ってきた家事などを手伝って貰うことで、協力しながら暮らせる場を築いている。</p>	
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>本人からの訴えは、面会時等に家族に伝え、職員と家族で解決方法を話し合うようにしている。なかなか面会に来られない家族には、電話で連絡が取れるように支援している。不穏状態が続く時には、面会をお願いしたり、病院受診の付き添いをしていただいたりして、本人との関わりが持てるように努めている。</p>	
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>遠方の方も多く、これまでの関係が途切れやすいが、電話や手紙等利用し、関係を継続できるよう努めている。また、面会も、連絡を頂ければ、夜間帯も受け付けており、宿泊もできるようにしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>ご自宅の隣人だった方がよく訪ねて来てくださったり、「自宅に帰りたい」「自宅が気になる」ような利用者も多く、ご家族にはご本人の意思を伝え、少しの時間でもご家族と過ごせるよう働きかけておられた。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) テーブルの配置替えをして、いろいろな利用者さんと接せるようにしたり、気持ちを聞きながら、スタッフが間に入り、スムーズに関わりを持てるようにしている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 必要に応じて、相談や支援に応じれるように努めている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日常生活の中で1対1になった時や外出時に、本人の思いや希望などをの話しを機会を持てるように努めている。聞き取りが困難な場合は、本人の行動や表情等から、思いを汲み取り、意向に沿えるように取り組んでいる。	
			(外部評価) 年1回、要介護認定更新時に、利用者個々のアセスメント表も書き替えるようにされている。項目に沿ってご家族も記入する欄があり、ご家族に郵送等をして記入してもらっている。洋服の寄付が沢山あった際には、利用者個々にお好きなものを選んでいただくようにされ、職員は、利用者が真剣に洋服を選ぶ姿を見て、選ぶことの大切さを知り、その後、日々のおやつ等についても選んでもらえるように支援されている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 契約時や入居の際に得た情報を生活シートにまとめ、スタッフ全員が把握できるようにしている。日常生活の会話や関わりの中で、本人から得た情報もスタッフ間で報告・記入し、共有できるように努めている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの生活のリズムや心身状態を把握し、ケアが出来るよう、把握に努めている。出来ることを、スタッフと共に取り組んだり、役割を持ったりしながら、有する力の把握ができるようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 月に1回、一人ひとりの様子や困ったことなどをカードに記入し活用している。介護計画作成時には、職員や本人と話し合い、家族にも、介護や生活に関する要望を確認している。	
			(外部評価) 毎月のミーティングでの話し合いと月末に担当者二人で作成する「困ったことカード」の内容をもとに、半年ごと介護計画を作成しておられる。日々の介護記録には、介護計画について記入する欄を設けておられるが、現在は記入するまでに至っていない。記録類の保管については、今月前月分を事業所に保管して、その他はすべて法人事務所で管理するようになっていく。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 1日の過ごした様子や気付いたことなどを、個別に介護記録に記入し、スタッフ間で情報を共有している。スタッフ・管理者の間で、報告・連絡・相談を密にし、実践や見直しに活かしていくように努めている。	
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人や家族の要望に柔軟に対応できるように、取り組んでいる。	
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 近くのふれあいサロンに参加し、カラオケを楽しんだり、地域のお祭りに参加したりしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>遠方であっても、本人・家族の希望があれば、通院の 支援をしている。基本的には家族に通院同行をお願い しているが、無理な場合は、職員が同行している。か かりつけ医から、他の医療機関への受診を勧められた 場合は、本人・家族と相談して決定し、適切な医療を 受けられるようにしている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>入居時にご家族等と相談の上、かかりつけ医を決めて おられる。通院は、ご家族が付き添う方やご家族の都 合に合わせて職員が同行されている。協力医の定期的 な往診と、電話やファックスで状態を報告して、往診 が必要な場合はすぐ来てくださるようになっている。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>看護職としての職員は常駐していないが、体調等に 変化があった場合や、気付いたことがあったら、看護 師の資格のある管理者に報告・相談し、適切な受診や 看護を受けられるようにしている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>入院時は、管理者が医療機関と十分に話し合い、退 院後の生活についても相談等している。</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>(自己評価)</p> <p>入院時は、管理者が医療機関と十分に話し合い、退 院後の生活についても相談等している。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>入居時に、希望を聞き取り、事業所で出来ること、出 来ないことを明確にし、十分に説明し、家族・本人と 話し合い支援を行っている。ケアプラン更新時にも、 希望の再確認を行っている。</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>入居時に、希望を聞き取り、事業所で出来ること、出 来ないことを明確にし、十分に説明し、家族・本人と 話し合い支援を行っている。ケアプラン更新時にも、 希望の再確認を行っている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>状態変化時には、かかりつけ医からの説明、ご家族の 希望等も踏まえて話し合い「契約書」を作成されてい る。これまでも看取りを支援された経験もあり、協 力医等とも連絡し合ったり、往診にも来ていただきな がら看取られた。職員は「管理者が看護師で安心」と 感じておられ「協力しながら支援していきたい」と話 しておられた。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) ミーティング時に、資料等を使い、状況に応じて対応の方法を学ぶ機会を設けている。急変や事故発生時は、管理者に連絡し、指示を受けて対応するように話し合いをしている。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回、職員全員参加の消防・避難訓練を行い、消火器の置き場所の確認や使い方、非常口のチェックを実施している。マニュアルを作成し、避難ルートの確認や消防への連絡方法も、職員全員が把握するように努めている。 (外部評価) 職員の連絡網は、ホームの近くに住んでいる職員から連絡できるように並び替えて新たに作られている。昨年12月、地域の避難訓練に職員が参加されており「今回は、利用者も一緒に参加したい」と話しておられた。	管理者は10月から、事業所で月2回「消防の日」を決め、通報・消火器の扱い方等「実際に役立つ自主練習を行っていきたい」と考えておられた。又、職員数の少ない深夜帯を想定した訓練や、地域の方達との協力体制等、さらなる利用者、職員の安心安全に向けた取り組みを工夫していかれてほしい。又、そのような取り組みについては、ご家族や地域の方達にも伝えていかれてほしい。
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人ひとりのプライバシーを尊重し、人格を大切にされた対応を心掛けている。 (外部評価) 管理者は、職員に「もてなしの心を学んでほしい」と、料亭に行かれたり、アドバイスしながら取り組みをすすめておられる。管理者は、おむつ交換を行う際にも「してあげる」ではなく「させてもらう」と考えれば、自ずと理念に沿ったケアが実践できることを伝えておられる。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 何か活動をする時には、まず本人に思いや希望を聞くようにしている。自分で決めかねる場合は、いくつか選択肢を出し、選びやすいように工夫し、自己決定できるように働きかけている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりのペースを大切にし、体調などを考慮しながら、やりたいことや好きなことが出来るように支援している。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 自宅で着ていた洋服を持ってきて頂き、季節に応じて衣替えの支援をしている。更衣の際には、本人に洋服を選んで貰うようにしている。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 一人ひとりの出来ることを把握し、料理の下ごしらえや盛り付け、後片付けのお手伝いなど、職員と一緒にして頂けるよう支援している。 (外部評価) 食事の献立は、その日の「日替わりリーダー」が食材を見て決めるようになっている。できるだけご自分で食事ができるよう、利用者の状態に応じて大きいスプーンを使っていたり、ミキサーにかけたり、とろみを付ける等調理されていた。ご自宅で自炊をしていた利用者は、職員と一緒に包丁を使って野菜を切ったり、下ごしらえをされる等、1階ユニットの利用者は、複数の方が食事作りにかかわっておられた。食事を終えて職員が利用者と「おいしかったね」と笑顔で話している様子がうかがえた。時にはホームの車や介護タクシーを使って外食に出かけておられ、外出を嫌がる方でも外食は喜ばれるようだ。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量をチェック・記録するようになっている。一人ひとりの状態に応じて、調理方法を変えるなどして対応している。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアを行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	
			排泄記録表に記録をつけ、排泄のパターンや習慣を把握し、声かけ・誘導を行うようにしている。	
			(外部評価)	
			尿意のある方は「介助にどんなに時間を要してもトイレで排泄できるよう支援する」ことを決めておられる。尿意がはっきりしなくなってきた時期の見極めについては、毎月のミーティング等で情報を集めて職員で話し合い、支援方法を検討されている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)	
			水分をしっかり取ったり、乳製品をとるなどして、予防に努めている。必要に応じて、トイレやお風呂でお腹のマッサージ等もしている。	
			(外部評価)	
			一人ひとりの希望を聞き、納得した上で入浴をするようにしている。仲のいい利用者同士と一緒に入浴したり、職員と会話を楽しむなどして、楽しく入浴できるように工夫している。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	
			浴槽は、普通のある家庭にある形のを設置されており、介護度が重度になった方も複数の職員で介助して浴槽で温まれるように支援されている。入浴の頻度等は、ご本人にお聞きして決めるようにされている。	
			(外部評価)	
			一人ひとりの生活習慣や、その日の体調に応じて、ゆっくりと休息したり、落ち着いた時間を過ごせるように支援している。シーツを交換したり、お布団を干したりして、心地よく眠れるように努めている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)	
			一人ひとりの生活習慣や、その日の体調に応じて、ゆっくりと休息したり、落ち着いた時間を過ごせるように支援している。シーツを交換したり、お布団を干したりして、心地よく眠れるように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋は個人別のカルテに保管し、内容確認できるようにしている。薬には記名をし、服薬の際には確認・見守りをしている。薬の変更があった場合には、症状の変化がないかなど、注意して見守っている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの出来ることや好きなことを把握し、それを活かした役割を与えて、職員と一緒にいる。散歩や買い物などに出掛け、気分転換を図っている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 一人ひとりの希望や体調に応じて、出掛けられるように支援している。普段行けないような場所でも、都合をつけながら、なるべく出掛けられるように努めている。	
			(外部評価) 「遠出をすると利用者の表情がいつもより良い」という職員の意見があり、月に1回は外食や買い物、花見等に出かけられるように取り組まれている。管理者は、今後「外に出たり散歩等の機会を多く持って、利用者が太陽の光を浴びることに心がけ冬に備えたい」と話しておられた。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 事務所金庫にて保管し、必要に応じて出金している。買い物等は、職員同行にて、自由に使えるように支援している。」	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望に応じて、対応している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>共用の空間は、居心地の良いようにお花を活けたり、季節に応じて模様替えをするなど、工夫をしている。スタッフや利用者の意見を取り入れながら、工夫している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>駐車場の出入り口には、ジュースの自動販売機とベンチを設置して、休憩できる場所を作っておられる。居間には、畳を一畳分置いて座る場所を作り、又、椅子が各所に配置されており、利用者がそれぞれ好きな場所で過ごせるようになっていた。台所は居間と境目のない造りで、調理している職員の後で、利用者がテーブルでおしゃべりしたり調理の下ごしらえをされていた。1階は、居間から庭に出られるようになっており、雨の日にもちょっと外に出られるようになっていた。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>リビングや廊下等に、イスを置き、休憩や利用者同士のコミュニケーションの場を設けている。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>なじみのものを持ちこんでもらったり、好みのものを作ったり、購入するなどして、居心地のよい空間作りをしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>押し入れに身の回りの物を収納されている方も多い。ご自宅からたんすやテレビを持ち込まれている方もおられる。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>居室やトイレ、浴室など、分かるように目印をつけ、分かりやすい環境づくりをしている。安全で自立した生活が送れるように、配慮している。</p>	